

平岡会計だより

2023.10 Vol. 166

発行元



税理士法人 平岡会計事務所
大阪市中央区天満橋京町1番26号
尼信天満橋ビル7階
TEL06(6966)5858 FAX06(6966)5868
<http://www.hiraoka-kaikei.jp/>

<目次>

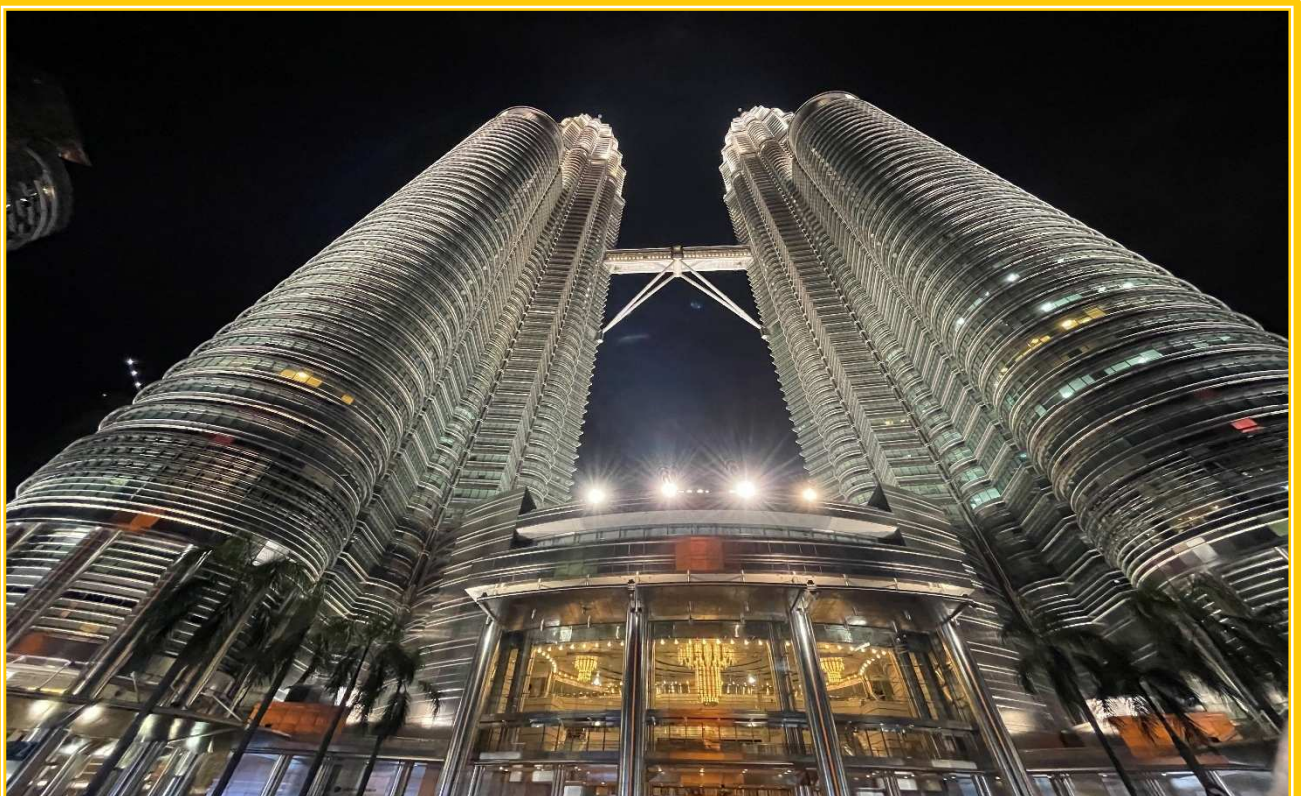
税務》	相続税の対象となる生前贈与と改正.....	P 2
特集》	Chat G P Tとは.....	P 3
労務》	労働条件明示のルール改正.....	P 4

～ B S A S (ビーサス)のご案内 ～

B S A S (Business Strategy Accompanying Support)とは、中期経営計画伴走型支援のことで、平岡会計のオリジナル造語です。巷にある策定支援ではなく、伴走型支援がキモとなっています。中期経営計画といえば、会社の強みや弱み等の分析手法(S W O T分析)と数字を並べた机上の計画に終わってしまいがちで意義を感じない方も多いのではないのでしょうか。

弊所が行う伴走型支援は、代表者の方の経営に対する考え方・理念を文章化し、3年から5年後の会社のあるべき姿を計画に落とし込み、その計画を社員の皆さんと共有する場を設け会社一丸となれるよう支援する弊所独自のサービスです。

経営幹部をはじめ責任者等、必要があれば一般の従業員の方にもアンケートや面談を行い、意見をボトムアップして計画に反映させます。社員の方も計画策定と一緒に参加しますので、共感をもってくださいやすくなりますし労働環境の改善にもつながります。そして策定した計画が予定通り進んでいるか、売上計画や行動計画の進捗度等のモニタリングを会議形式で定期的に行います。作って終わりではなく、作ってからがスタートの計画です。普段、会社内で会議をしていても発言がない、後継者も交えて将来のあるべき姿を考えたいなど、ご相談を承っております。



ペトロナスツインタワー（クアラルンプール）

～相続税の対象となる生前贈与と改正～

平成25年度税制改正により、平成27年から相続税の基礎控除額の引き下げなどが行われ、それまで4%台で推移していた全国の相続税課税割合は、一気に8%台に上昇しました。令和3年分は9%を突破しています。

今後、増加する高齢者に相続が発生すると、相続税の申告を要する納税者は益々増えると思われます。

相続税は被相続人(故人)の財産を相続や遺贈により取得した場合に課税されます。さらに、相続人等(1)が、**相続開始前の一定期間**に被相続人から贈与を受けた財産のうち、暦年課税(2)によるものが相続財産に加算され課税されます。

「相続開始前の一定期間」とは、その相続に係る被相続人の死亡の日からさかのぼって3年とされ、贈与税がかかっていたかどうかに関係なく相続財産に加算されます。この「相続開始前の一定期間」が令和5年度税制改正により改正されていますので確認をお願いします。

(1) 相続人等: 相続や遺贈により財産を取得した人

(2) 暦年課税: その年の1月1日から12月31日までの1年間に贈与によりもらった財産の合計額から、基礎控除額(110万円)を差し引いた残りの金額に税率を乗じて贈与税を計算する方式

令和5年度税制改正で加算対象期間等はどう見直されたのか？

相続財産に加算される贈与の期間を4年間延長

	改正前	改正後
加算期間	相続開始前3年以内	相続開始前7年以内

加算額の計算方法の変更

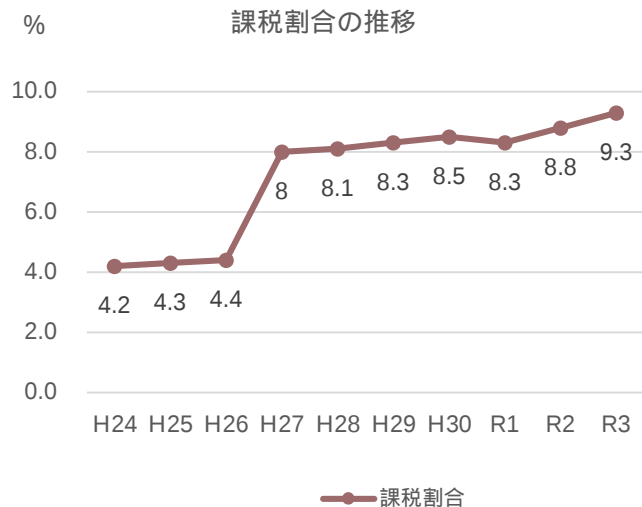
	改正前	改正後
加算額	贈与により取得した財産の価額の合計額	同左 (ただし、相続開始前3年超7年以内に贈与により取得した財産については、総額100万円までを控除)

今回の改正により延長された期間(相続開始前3年超7年以内)に贈与を受けた財産の価額については、相続税の申告の際に確認すべき生前贈与の記録・管理に要する事務負担を軽減する観点から、総額100万円までは相続税の課税価格に加算されないこととされました。

尚、今回の改正は令和6年1月1日以後に受けた贈与について適用されます。

令和5年以前に行われた贈与には改正前の制度が適用されますので、相続開始前7年以内の贈与には該当しません。

課税割合の推移



(作成: 岸上将也)

～ ChatGPT とは？ ～

昨年末に公開され、ネット上の話題となった ChatGPT。現在でも様々なニュース等で話題に上がります。改めて ChatGPT とは何かを解説いたします。

【ChatGPT とは？】

ChatGPT は2022年11月に公開されたネットサービスです。全世界でのユーザー登録数1億人までの期間が2ヶ月と、当時としては異例の早さでした。この状況を見るだけでも、ChatGPT の注目度の高さがうかがえます。

ChatGPT の主な機能は、学習した内容に基づき利用者とサービス間でチャットを行うことです。何か言葉をサービスに投げ掛け、その返答を受け取ることができます。従来のチャットサービスのイメージは、想定される質問に対して予めサービスが決めた回答を返すものを想像する方が多いと思います。このため、利用者自身が上手に言葉を選ぶ必要がありました。

これに対し ChatGPT は、投げ掛けられた言葉の解析及び作成された回答の内容が従来のものより正確で、回答文書の言葉使いが自然に感じられるといわれており、機能の優れた点が感じられます。

【利用上の注意】

ChatGPT は一見優れていますが、質問に対する回答が正しいことを保証するものではありません。特に、無料のプランで提供される質問の解析能力と回答の作成能力は、一定以上の“でき”は期待できますが、別途その内容を確認した方がよいでしょう。

より正確な回答を得たいと考える場合には、有料プランを利用する方がよいといわれています。有料プランでは、より高度な解析能力を利用することでより間違いの少ない回答を得ることが期待できます。

【個人情報漏洩する可能性】

ChatGPT は学習する旨をここまで記述していますが、この学習のベースとなる情報はどこから入手しているのでしょうか。

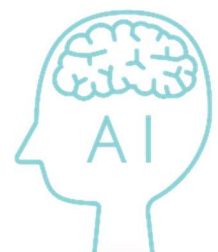
1つはネット上の情報ですが、もう1つはサービス利用者が投げ掛けたチャットの内容そのものです。そのため、利用者本人の個人的な情報や勤め先の内部情報を含んだ内容などを書き込むと、ChatGPT はこれを利用した回答用の情報を産み出します。別の利用者の投げ掛けに対して、ChatGPT が上記を含んだ回答がよいと判断した場合には、これを返してしまいます。

このような情報利用があるため、一部の企業や国では ChatGPT の利用そのものを禁止・遮断して、情報が漏洩しないよう対応を開始しています。この点は個人利用の場合でも、十分注意する必要があります。

【ChatGPT の活用方法】

ChatGPT の活用方法としましては、補助金の申請における文章作成や社内の各種規程のたたき台づくり等が挙げられます。また今後、エクセルやパワーポイントとの連携ができるようですので、エクセルでのマクロの組み込みやパワーポイントでのプレゼン資料作りにも活かしていけることでしょう。

是非様々な活用方法を検討してみたいかがでしょうか。



労働条件明示のルール改正

令和6年4月より、労働契約の締結・更新のタイミングの労働条件明示事項が新たに追加されます。これにより労働条件通知書や雇用契約書に記載すべき内容が変更になります。早めに準備を進めておきましょう。

1. 改正の概要

今回追加される明示事項は下記の4点です。

追加される明示事項	明示のタイミング	対象者
就業場所・業務の変更の範囲	全労働契約の締結時・有期労働契約の更新時	すべての労働者
更新上限の有無と内容	有期労働契約の締結時と更新時	有期契約労働者
無期転換申込機会	無期転換申込権が発生する契約の更新時	
無期転換後の労働条件		

2. 改正のポイント

「変更の範囲」とは、将来の配置転換などによって変わり得る就業場所・業務の範囲を指します。

「更新上限」とは、有期労働契約の通算契約期間または更新回数の上限のことです。なお新たに上限を設ける場合には、事前の説明が必要です。

無期転換とは、同一使用者との間で有期労働契約が5年を超えて更新された場合に、有期労働契約者からの申込により、期間の定めのない無期労働契約に転換されることです。

無期転換後の労働条件には、他の労働者（正社員等）とのバランス（業務内容・責任の程度・異動の有無等）を考慮して決定した事項について、有期労働契約者に説明する努力義務があります。



（作成：浜崎千絵）



『最高の結果を出す KPIマネジメント』

著者：中尾隆一郎 発行：フォレスト出版

KPIの適切な設定や豊富な事例が本書の特徴となっています。KPIとは事業成功の鍵を数値目標で表したものです。KPIを単に事業を数字で分解したものと捉えてしまいがちですが、未来志向で達成すべき数字と考えると形骸化せず生きたものとして運用することができます。

本書の良い点の1つ目は、KPIがKGIの先行指標であり、CSFの数値目標であり、この3点をわかりやすくまとめているところです。また、KPIを会社全体で共有・実行・改善し続けることの重要性を教えてください。2つ目は、豊富な事例です。営業という身近なものからコストセンターの話まで、数多くの事例がわかりやすくまとめられていますので、大変参考になります。

一度本書を参考にKPIマネジメントに取り組まれてはいかがでしょうか。

- 編集後記 -

先日マレーシア旅行に行ってきましたが、活気ある町の発展ぶりに大変驚かされました。物価水準は、かなり日本に近い印象を受けました。

成長を感じる雰囲気は高揚感があり、とてもその場にいて楽しいひと時でした。

それに比べ日本はと考えさせられます。ライフサイクルでいえば日本は衰退期かもしれませんが、超高齢化社会を迎え、どのように少ない労力で高い価値を生み出していくかが再浮上のポイントとなりそうです。今回ご紹介しているChatGPTをはじめとした生成AIやDXが今後の鍵となるかもしれません。これから注視していきたいですね。（安武正己）